



自然環境に配慮した施設づくり

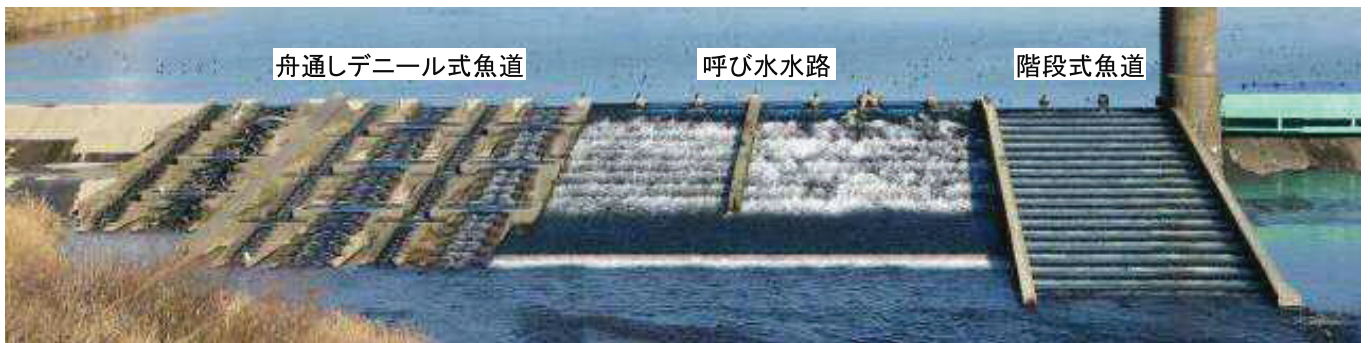


昔から、相模川は「鮎川」と呼ばれ親しまれてきました。

寒川取水堰では、自然環境を保護し「魚ののぼりやすい川づくり」のため、相模川の生態系に配慮した施設づくりを行っています。

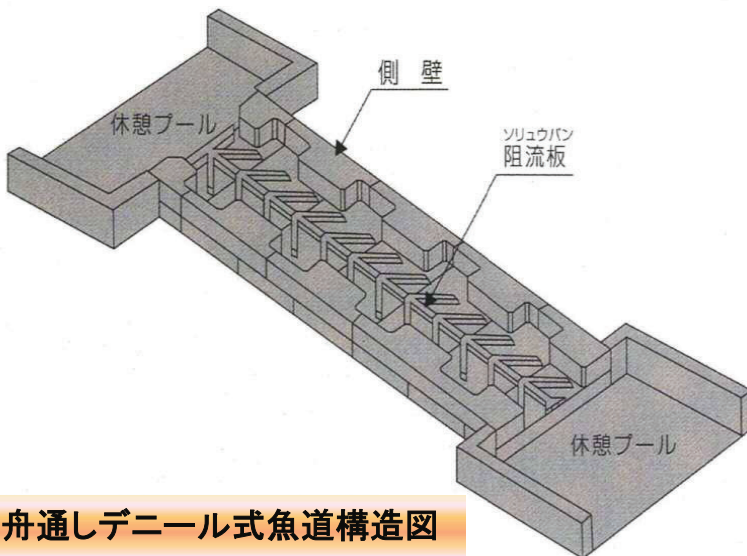
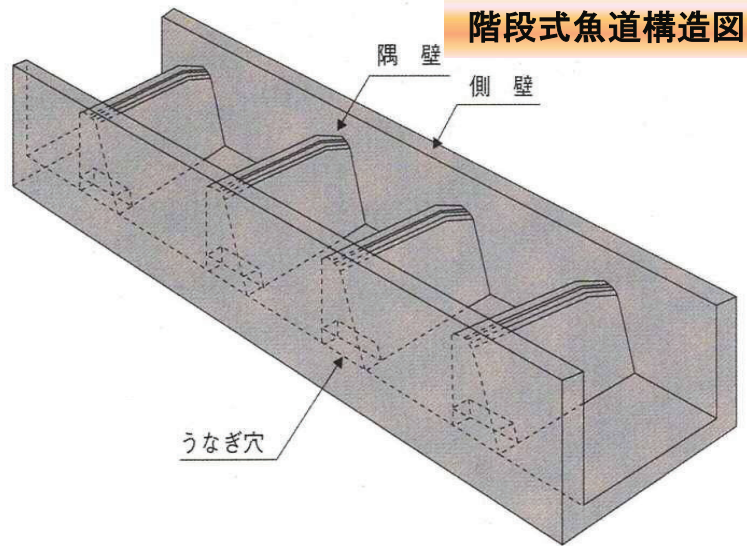
この堰には、鮎、ウグイ等の魚類が堰上下流を自由に行き来できるように、階段式と舟通しデニール式の2種類の魚道が設置されています。

また、堰に集まった魚類を魚道へ導くため、両魚道の中央には呼び水水路を設けています。



■ 階段式魚道

この魚道は平成4年度に粗石付魚道であったものを、大きな魚も上れるように改修したもので、水路に隔壁を設けプールが階段状に連なった形状をしており、主に鮎やウグイなどの遊泳魚を対象としています。



■ 舟通しデニール式魚道

水路底部に設けられた魚の骨のような形をした阻流板により、多様な水の流れを生み出すとともに、側壁の凹凸や休憩プールを設け、より多くの魚種が遡上できるよう平成10年度に設置しました。

舟通しデニール式魚道構造図